第186回 電力・ガス取引監視等委員会【第1部 公開開催】
議事録

日時：平成30年12月6日(木)10:20～10:40

場所：経済産業省 別館1階103-105会議室

出席者：八田委員長、稲垣委員、北本委員、林委員、圓尾委員

議題：

- (1) 託送供給等約款以外の供給条件の認可について
- (2) 「適正なガス取引についての指針」の改定の建議について
- (3) Asia Pacific Energy Regulatory (APER) Forum Meeting 2018 について

○八田委員長 おはようございます。

それでは、ただいまから第186回の電力・ガス取引監視等委員会を開催いたします。

本日の議題は、「議事次第」にあるとおりです。

議事に入る前に、議事や資料の取り扱いについて、都築課長からご説明をお願いいたします。

○都築総務課長 本日の議題ですが、第2部として3つの議題がございます。これらにつきましては、個社の情報を取り扱うことから、これら議事について、委員会として必要と判断された場合には非公開とし、「議事要旨」を後日委員会ホームページに掲載することとしたいと考えております。

会議資料ですが、情報公開請求された場合には、その対応について改めてご相談をさせていただくこととしたいと思います。

以上、委員会として、ご判断をいただければと思います。

○八田委員長 それでは、今お話がありましたように、「議事次第」において、第2部と記載されている3つの議題については、非公開で開催してもよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、異存がないようですので、そのようにさせていただきます。

それでは、早速第1部の議事に入ります。

議題(1)は、「電力の小売営業に関する指針」の改定の建議について、木尾室長からご説明をお願いいたします。

○木尾取引制度企画室長 資料は、3/127ページでございます。

電力の小売営業に関する指針の改定の建議ということでございまして、まず、経緯を申し上げますと、制度設計専門会合で3月、7月、9月、10月とでご審議をいただいたことを踏まえまして、10月29日朝の本委員会で改定案について、パブリックコメントにかける

ことについてご了解をいただきまして、今回パブリックコメントを行った結果についてご報告をし、あわせて今後の方針についてご審議をいただきたいというものでございます。

具体的な中身については、4/127ページに書かせていただいております。さらに6/127ページ～8/127ページに新旧対照表をつけさせていただいておりますけれども、4ページを簡単にご説明させていただきますと、スイッチング期間中に、取り戻し営業の実態があるという指摘に鑑み、そのスイッチング期間中に当該需要家が、そのスイッチングを撤回させることを目的とするような行為について、ガイドライン上で禁止をする問題となる行為と位置づける、そういう改定を行うものでございます。

パブリックコメントを行いましたけれども、3/127ページに書かせていただいておりますが、意見はなかったということでございます。

したがって、5/127ページのとおり、経済産業大臣への建議を行いたいというものでございます。

以上です。ご審議のほどをよろしくお願いいたします。

○八田委員長　ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明に対するご質問、ご意見ございませんでしょうか。

稲垣委員どうぞ。

○稲垣委員　取り戻し営業の定義については、認定を、何か客観的に行うという議論があったけれども、それはどこかに入っていますか。

○木尾取引制度企画室長　確認をいたします。

○稲垣委員　目的のところですけども。

○木尾取引制度企画室長　このガイドライン自体に、客観的に行うということは明確に書いているわけではございませんけれども、実際の運用上は、前回ご説明させていただいたとおり、客観的に認定を行う必要はあるのだろうというふうに考えてございます。

○稲垣委員　結構です。ありがとうございました。

○八田委員長　それでは、事務局から説明があったとおり、電力の小売営業に関する指針の改定について、大臣に建議することとしてよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

ご異存はございませんでしたので、そのようにさせていただきたいと思っております。

さて、次の議題に入ります。

議題（2）の「適正なガス取引についての指針」の改定の建議について、これは鎌田課

長からご説明をお願いいたします。

○鎌田取引監視課長 資料は、72/127ページでございます。資料4でございます。

「趣旨」、「主なポイント」にも記載してありますけれども、本件につきましては、LNG基地の第三者利用の促進に向けまして、適正なガス取引についての指針を改定することを経済産業大臣に建議することについて、ご審議をいただくものでございます。

指針の改定案につきましては、10月29日の委員会です承をいただきまして、10月30日～11月28日の30日間、パブコメを実施したところでございます。

改定の内容につきましては、72ページの下半分「参考」のところに記載しておりますけれども、1つ目に「製造設備の余力見通しの適切な開示の在り方」、2つ目に「ルームシェア方式における適切な課金標準の在り方」、そして3つ目に「貯蔵料金の算定に係る配船調整の考え方」、73ページにまいりまして、4つ目に「基地利用料金の適切な情報開示の在り方」、5つ目に「あっせん・仲裁の利用促進について」ということでございます。

このパブコメに際しましては、資料4-4、116ページでございますが、こちらの1件、パブコメに関しまして意見が寄せられておりますけれども、内容としては、「「ガス」という文言は混乱する」というような内容でございましたが、右の「ご意見に対する考え方」に記載しておりますとおり、「ガス事業法で使われている用語でございますので、特に混乱を来すおそれはない」ということで、原案どおり経済産業大臣宛て、指針の改定を建議したいと思っております。

建議の文書につきましては、資料4-5でございますが、117ページに添付をしているところでございます。

以上でございます。

○八田委員長 ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明に対するご質問、ご意見ございませんか。

それでは、ないようですので、事務局からご説明があったとおり「適正なガス取引についての指針」の改定について、経産大臣に建議することに、ご異存ございませんでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、そのようにさせていただきたいと思っております。

さて、次は議題(3)です。

「Asia Pacific Energy Regulatory (APER) Forum Meeting2018について」、都築課長

からご説明をお願いしますが、その前に私からも、まず、委員の方たち、それから職員の方たちに大変なご努力をいただいて、これは大成功で、外国のお客さんたちも皆さん感謝しておられたし、実際に会議自体は、本当に立派な方たちばかり来られて、効率的に実のある会議になったというのは、本当によかったことだと思います。厚くお礼を申し上げます。

それでは、都築さんお願いします。

○都築総務課長　それでは、資料でいきますと118/127ページ、資料5をごらんいただければと思います。

最初に、いろいろな囲みとか資料がありますが、ページを飛んでいただきまして、121/127という横置き資料のところに概要版がございますので、こちらをごらんいただければと思います。資料5-1というものです。

きょうのご報告は、「アジア太平洋諸国のエネルギー規制機関会合」でございます。

「APER Forumとは」というところで書かせていただいておりますが、エネルギー産業・市場発展のため、よりよい規制や政策に関する意見交換の場として2012年より、2年に1度開催をしてきているものでございます。

本年につきましては、先月末でございますが、東京にて、日本がホスト国として参加をし、日本と12カ国の海外規制機関、計13カ国で会議を開催いたしましたものでございます。

会合を通じて、私どもの政策的な意義ということで考えていった場合には、各国の先進的な取り組みに関する情報収集、日本のエネルギーシステム改革の対外発信を行い、先進的な取り組みの日本への導入、あるいは日本の取り組みというものをアジア各国と調和がとれたような形でシステム改革を進めていくことにつながられたらよいのではないかと、そういった思惑のものでございます。

その下のところがございますが、そういった観点から、セッションを3つほど設けております。「新技術の普及と電力ネットワークの在り方」、それから「競争的、投資可能なエネルギー市場の形成」、それから、規制機関の会合でございますので、「適正な市場監視・規制の在り方」という3つのテーマについて議論を行いまして、認識を共有したところでございます。

ページを戻っていただきまして、118/127でございます。

今、「主なポイント」の1というところで、「Forum Meetingの概要」についてご説明を申し上げましたが、その次の2というところで、「ディスカッションの概要」というと

ころがございますので、そちらをごらんになっていただければと思います。

今申し上げましたように、3つのテーマで議論をしたわけでございます。

まず、最初のテーマ1というところでございますが、電力システムにおけるdisruptive technologyについての議論がなされたところでございます。この分野にもいろいろな技術革新のうねりが来ているわけでございますが、やはり各国との共通の問題意識をもつ中で、とりわけ温室効果ガスやコスト削減に資する技術の導入拡大に必要となる市場設計、あるいは料金やネットワーク運用も含めた制度的な課題についての議論が深められたところでございます。

とりわけ各国で蓄電池などについての政策的支援がございます。私ども日本においても、こういった取り組みがあるわけでございますが、こうした支援と規制の調和ということについても議論がなされたものでございます。

続きまして、テーマ2でございます。「競争的で、かつ投資可能なエネルギー市場について」ということで、垂直統合時代から、発電、それから小売の自由化という流れは、各国とも割と似たような流れを踏んでいます。テンポとかやり方は微妙な違いはあるかとは思いますが、割と共通の進め方をしてきております。

今申し上げましたように、国により自由化のステージも異なる中で、制度設計の考え方について、いろいろな議論が交わされたところでございます。

特に、小売自由化を進める上で重要な要素となるスマートメーターについての議論というのは、その中でも非常にフォーカスが当たったところでございます。

その普及の進め方、それから、スマメデータのアクセスについて、活発に議論が行われたものと承知しております。

あと、スマメデータのアクセスについては、これはいろいろ普及が進んでいくと、今後規制機関としてもますます大きな課題、論点になってくるのではないかというようなご指摘もあったところで、そうした認識は共有されたところです。

それから、テーマ3でございます。

「市場監視と規制の在り方」についての議論ということでございます。競争促進、それから市場の信頼性向上の観点から、市場支配力の抑止、それから、相場操縦への監視などについての議論がなされたところでございます。

とりわけ情報収集の在り方、それから、収集された情報に関する分析能力の重要性といったところが話題となったところでございます。

エンフォースメントについては、いろいろ各社各様というか、そういうところがございまして、どこまでを監視機関としてやっていくべきなのかというようなところも議論がありました。引き続き意見交換をしながらレベルアップしていくことが重要だろうということで認識が一致したところでございます。

これが11月28日、それから29日の2日間にわたって開催された会議自体の概要でございます。

11月30日には、各国の方々をお連れするような形でFieldtripを開催いたしました。資料で言うと、3にございますが、3カ所、藤沢サスティナブルスマートタウン、それからアズビル、それから電力広域的運営推進機関、この3カ所にそれぞれ訪問して、現地の方といろいろな意見交換等をさせていただいたということでございます。

各国の参加者は、見学に際していろいろな形で、いろいろなご質問をし、興味深くお聞きになられているという光景がございました。

電気自動車の料金プランというのは、藤沢のサスティナブルスマートタウンのところで起きていた出来事ですけれども、こういういろいろな取り組みに対して、皆さん、規制機関の方はコスト意識が結構あるということもございまして、こういったことを実現していくのにどういふふうな費用と便益みたいなものを考えておられるのかと、そういった問題意識もあつたのではないかなというふうには思っております。

それから、広域機関でございますが、割と日本独自の取り組みということがございまして、一般送配電事業者との役割分担というところ、そういったところについてもいろいろな質問がございました。

話としては、これはちょっと戻りますが、4.のところで、次回開催国、これは29日のミーティングの際に決定したわけでございますが、2年後につきましては「APER Forum Meeting」についてはシンガポールで開催するというところで決定をいたしております。

次のページ、120ページをごらんいただきますと、参考として各国代表の集合写真ということで、こんなメンバーで議論をしたということ。

それから、その下の写真でございますが、会場は汐留のコンラッドホテル東京でございますが、その会議場の模様について、資料を添付させていただいております。

それから、先ほどの横長の資料を飛んでいただきまして、その次、資料5-2というのが122ページにございます。これは、会議自体が終了した11月29日の晩に、私どもとして、経産省のホームページにプレスリリースをさせていただいております。

今ご説明させていただいたような趣旨を、ここでは書かせていただいております。

それから最後、資料5-3でございますが、APER Forum MeetingのFieldtripについて、それぞれの訪問先、いきなり広域機関が入っていたりとかするので、順序的には時系列になっていないかもしれませんが、説明の骨子みたいなものをつけさせていただいております。

説明は以上でございます。

○八田委員長　　どうもありがとうございました。

これは報告事項ですので、これまでにさせていただきたいと思いますが、岸さんは、コメントありますか。

○岸事務局長　　八田委員長をはじめ、各委員の皆様にご協力をいただきまして、ありがとうございました。私ども事務局としても、こういった大きな国際会議をホストするというのは初めてのチャレンジでしたが、幸い大成功ということで、よかったなと思っております。

こうした大きな会議だけではなく、これをまた契機にして、日常的に各国の規制機関とフランクな意見交換をしていくことが、規制の効率や効果を高めるとともに、新たな市場設計にも大きな知恵をもたらすものだと考えています。また、それにとどまらず、日本も進み始めた、あるいは、もう既に進んでいるところもありますので、こうしたところを世界への貢献という意味でも双方向に活かしていきたいと思っております。引き続きご指導のほどをよろしく願いいたします。

以上です。

○八田委員長　　ほかにコメントございますか。

先ほど都築さんがおっしゃったことですが、例えばスマメを日本のようにきちんと広域機関とか、経営層？とか、そういうレベルでつけるか、それとも個々の企業でつけるかというのは各国で違って、そして、個々の企業でつけた場合には、後になってデータの取り扱いに物すごい問題があるし、それから、スイッチするときに変な問題がある。その意味で、日本は非常にうまくやったということはあるし、それから、今度蓄電池を発電側にもたせるのか、それとも経営層？にもたせるのか、これもいろいろな国で考え方が違う、やり方が違うというようなことがあって、そういう実務的な問題でも意見の交換ができましたから、これは本当にお祭りというよりは、大変実質的な意味がある会議だったと思います。

皆さん、本当にありがとうございました。

それでは、これで予定していた議事は全てですけれども、ほかに何かありますか。

○都築総務課長　それでは、第2部は、準備が整い次第開催ということになりますが、以降の議題につきましては非公開となりますので、一般傍聴の皆様方におかれましては、恐縮ですが、ご退室をお願いできればと思います。

○八田委員長　それでは、これをもちまして第1部を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

——了——